

出張報告書

1. 調査団概要

(1) 調査団の目的

ABE イニシアティブ帰国後研修員と登録企業との交流の機会を設け、両者間のネットワーク維持・管理を図り、さらにアフリカ市場の視察等を通じ、アフリカにおけるビジネス展開に対する関心を高めるもの。

(2) 調査団日程

平成 30 年 1 月 27 日（土）～平成 30 年 2 月 5 日（日）

(3) 調査団員構成

企業 9 社 13 名（名業種は様々）、JICA2 名、JICE3 名の計 18 名。

2. 現地調査報告

□1/27 (土)

15:00～

那覇⇒羽田 移動

□1/28 (日)

00:30～17:00

羽田⇒ドバイ⇒ケニア 移動



機内から見たドバイ



象の置物



日本の中古車特にトヨタ車の人気が高い

17:00～18:00

CrownPlaza hotel で、JICA ケニア事務所員による安全に関する情報及び翌日の日程等についてのブリーフィング



CrownPlaza hotel



ホテル入口ゲート

□1/29 (月)

9:00~11:30

ABE イニシアチブ帰国研修員交流・意見交換会 (JICA ケニア事務所)

●ケニアツタ大統領の政策では、ICT 産業、交通網整備に重点が置かれている。(ケニアは慢性的な交通渋滞に悩まされている。特に出退勤時間は相当混雑している。信号もほとんどなく交通ルールも守られていない。無理な割り込み、追い越しも当たり前に行われていて、主要交差点では警察官が交通整理を行っている。)

●東アフリカ協同体 (=EAC、ケニア・タンザニア・ウガンダ・ルワンダ・ブルンジ・南スーダン) では近隣諸国との出入国、就労に自由化の動きがある。

●ABE イニシアチブ帰国研修員 12 名との交流、意見交換会を行った。ABE イニシアチブにおける研修員はケニア人が一番多く、次いで南アフリカの順になっている。また、ケニアに青年海外協力隊として赴任していた人が、ケニアに戻ってきて起業している日本人もいる。

●JICA ケニア事務所では、ABE 研修生を地元ボランティア担当として採用している。

●弊社で受け入れたチェミリルとの再会を喜びあった。チェミリルは帰国後カカメガからナイロビに異動になっていた。携帯電話が故障中らしく LINE での連絡が取れないとの事だった。

●10:30 ごろから少し早めの昼食を取りながら世間話や仕事の話をしている中で、弊社のマッピングシステムに非常に興味を持っており、JICA を通じてどうにか導入できないかという要望があった。日本にいるときにマッピングは見せており、維持管理に非常に役立つと感じているようであった。他にももっと色々な話をしたかったが、スケジュールの関係上時間が少なく、チェミリルとの交流は正味 1 時間程度で終了した。もっとたくさん話をしたかったので今後ビジネスとしてどのように協力できるのか模索していきたい。

●JICA ケニア事務所のすぐ隣に中国資本で高層ビルを建築中。東アフリカで一番の高層ビルになる。



JICA 事務所からの眺望



チェミリルとの再会



ABE イニシアチブ帰国研修生



ABE イニシアチブ帰国研修生



建設中の高層ビル

12:00～12:30

在ケニア日本大使館 植澤大使表敬訪問

- 日本はこれまで人への技術力を助ける援助をしてきた。
- 大使がこれまで聞いてきた経験談として、商売をするには得意とするものをアイディアを出して、工夫次第では成功する。
- チャンスをつかむ嗅覚と粘りが必要である。



植澤大使表敬訪問写真

14:00~15:00

製造業: Ultravetis 飼料等加工業

KIBT (産業・貿易・組合省ケニアビジネス研修所) 専門家 藤田氏の KAIZEN 指導済

●日本人専門家の 5SKAIZEN (5S・・・整理・整頓・清掃・清潔・躰) の指導により、業務改善が行われた企業。ライン生産で2つのチームで毎日生産を競わせている。決まった時間に集計を行い負けた方には何かしらのペナルティー?があるようだった。



ライン生産



チーム別目標と集計をボードに記入

17:00~18:00

JETRO ナイロビ事務所 直江所長

●ケニアの選挙は毎回のように負けた方が再選挙を要求するが、実際は再選挙は行われぬ。しかし、今回の選挙では最高裁が不正を認めたため再選挙となった。大統領選挙のあとには必ず経済が悪化するのがこの国の特徴である。

●在ケニア商工会加盟は 54 社 (商社、自動車、観光、建設等)

●在留邦人 814 人。うち企業関係 210 名。うち家族 68 名。

●銀行口座が中々開設で生きない為、2007 年頃よりモバイルマネーが非常に発達している。

(バスの中から見えても、スマホ・携帯電話の所有率は非常に高い) 出稼ぎ者が田舎に送金したり、公共料金、レストラン、タクシーの支払い、モバイルローンが非常に発達している。



JETRO 付近の人だかり (喧嘩の野次馬)



JETRO ナイロビ 直江所長

19:00～21:00

在ケニア日本商工会ビジネス交流会 CrownPlaza hotel

ケニアに滞在する日本企業と JICA ケニア事務所職員との交流会。

企画調査員（広域課題支援（給水））で、村落給水を担当している高嶋氏（技術士）と席を共にし、会食した。一人でケニア各地に赴き技術支援を行っているようで、集落で井戸を掘り簡易的に浄水処理し給水をしているが、給水所（water kiosk）から遠い住民は雨季には雨水を使用するため、需要が少ないときもあるという話をされていた。

●在ケニア日本商工会：5名

●JICA ケニア事務所：11名



手前右が高嶋氏



懇親会の様子

□1/30（火）

7:15～9:00

日本の ODA によるウゴンゴ道路を視察（バスで通過）

●JICA ケニア事務所付近にある日本の ODA で整備されたウゴンゴ道路を通過して目的地まで移動。ケニアは主要道路でも舗装されているが凸凹が目立ち、所々穴が開いている。また、歩道は未舗装が多く、雨季には非常に歩きにくい環境であろうことは容易に想像できた。信号、横断歩道がほとんどなく、幹線道路では時折歩道橋が架かっていた。そのような光景に見慣れている中で、日本が手掛けた道路を見ると、舗装された歩道、信号、横断歩道はもちろん、自転車専用レーンもあり、日本のクオリティーの質の高さを実感することができた。（現地では自転車はほとんど見かけなかったが・・・）



自転車専用レーン



横断歩道も整備されている

9:00～11:00

ジョモ・ケニヤッタ農工大学（JKUAT）訪問

●次世代アフリカの物作り（MONOZUKURI）に力を入れている大学。1978年から日本の無償資金協力および技術協力により設立された国立大学。

農学部では、様々な野菜や植物を栽培し、それを基にワイン、ジュース、ジャム等を生産し、一部商品はスーパーなどで販売されている。

●学内には日清との合弁会社「JKUAT 日清」があり、現地向け焼きそばを製造している。

●工学部ではケニア政府が取り寄せたPCパーツを組み立て、小学校へ無料提供している。また、4万円程度で学生に販売し、アフターフォローも行っている。



製造している食品



日本人指導員



日清の工場



日清のポスター

12:00～14:00

流通業（大型ショッピングモール視察）

●2017年に建設されたばかりの大型ショッピングモール内で食事、お土産購入

●ケニアでは数年前に大型ショッピングモールがテロの標的になり、犠牲者が出た。その後はセキュリティが厳しくなり、入り口での荷物、ボディチェックは厳重であった。また、ライフル銃を携帯した警察官がモール内を警備している。館内の写真撮影も禁止であった。



モールのセキュリティーゲート



ライフルを携帯している（隠し撮り）

15:00～16:00

金融・ITインフラサービス業（M-Kopa 視察）

●アフリカで最大規模を誇るモバイルマネーを運営している M-Pesa が提供する太陽光発電システムサービス。太陽光発電システムをリースし1年間利用者から毎日約50円ずつ料金を徴収する。一日でも未納の場合は、遠隔操作によりサービスをストップすることができる。所得の低いケニア人に対し、一日で支払い可能な額を毎日徴収することで、未徴収を防ぐ画期的なシステム。利用者は1年間毎日支払えば自分の物になるため、未納はあまりないとのこと。アフリカ全土に普及しているようで、コールセンタースタッフ数十人が電話対応を行っていた。これに類似したシステムが、水道料金の支払いにも応用されているようである。（プリペイドシステムなど）



ソーラーシステムの説明



コールセンター内

16:15～16:45

ネットワーキング機関、コワーキングスペース（貸オフィス）iHub 視察

●大小からなるスペースを企業や個人にレンタルしている会社。月額7千円から、5万、7万円で貸し出しており、ビル内にはバーの様な形態で食事も販売している。視察時は個人で利用している人が数名いた。



会社概要説明



レンタルスペース

18:00～21:00

在ケニア日本企業等交流・意見交換会 居酒屋 Cheka

日本人（柏木氏）が経営する居酒屋 Cheka にて会食。熱心に話しをして頂いた在ケニアの渋井氏とは、今後情報交換を密に行ってビジネスにつながるよう期待する。

チェミリルとはここでお別れ。お土産もたくさんもらい、いつかまたケニアで必ず会おう（仕事で）と約束してさよならしました。

参加者

- 在ケニア日本企業等：14名
- ABE イニシアティブ運営委員会：2名



懇親会の様子



渋井さんと意見交換

□1/31 (水)

9:00~11:00

ケニア・東アフリカ地域（北部回廊）物流概況講演 JICA 事務所

●阪急阪神エクスプレス社 高野氏によるケニア・東アフリカ地域の物流の講演および、Interspeed社（南アフリカの会社、阪急阪神エクスプレスの提携先）の倉庫見学。



高野氏



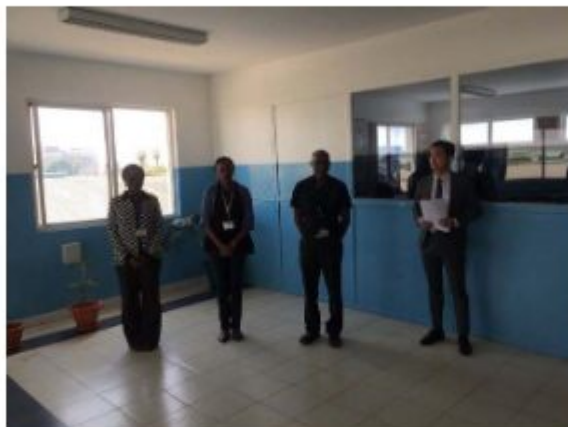
現場で見つけた水道管

※倉庫内は顧客の荷物を預かっているという事で撮影禁止。ドイツ製（ダンフォス社）の水道用ポンプが保管されていた。

11:30~12:30

日本通運倉庫・作業現場視察

●植物や切り花を空輸している。スタッフには10年間日本に住んでいたケニア人のスタッフもいて、日本語が堪能で非常に腰の低い日本人気質のケニア人であった。大学で日本語教師もしていると言っていた。日本語を話せるケニア人を積極的に採用しているとの事であった。



現地スタッフ



右側の男性は日本語堪能

13:30~18:00

ケニア⇒タンザニアへ移動

- タンザニアはケニアに比べ湿度が高く、沖縄の夏と非常に似ていた。
- ケニア同様信号がなく主要道路は渋滞がひどかった。



機内から見たケニア



タンザニアの空港 蒸し暑かった

□2/1 (木)

8:30~10:00

JICA タンザニア事務所でのブリーフィング 長瀬タンザニア事務所長

- タンザニアの基本情報および安全対策等

タンザニアは東アフリカで唯一の食料自給率100%の国である。ケニア同様銀行口座が開けないため、モバイルマネー利用率が高い。スリ、ひったくり、強盗などの犯罪が多く年に一回位は日本人が被害にあうケースがある。



JICA タンザニア事務所の職員
(一番右が長瀬所長)



地元朝刊で調査団が紹介されて
いた (文章のみ)

10：30～11：00

POPSM（大統領府 日本でいう人事院）訪問

- JICA と協働で ABE イニシアティブに派遣する人材を選抜している機関



訪問の様子



象のオブジェ

11：30～13：30

在タンザニア日本大使館 吉田大使表敬訪問

●タンザニア大使歴 2 年 10 か月。大田知事時代に沖縄に赴任しており、当時の住まいは那覇市上之屋、娘さんは泊小学校に通っていたというまさかの発言に仰天。非常に親近感が湧いた。とても気さくで話しやすい方であった。タンザニアは製造業が非常に弱く、例えば、エンジンの修理の仕方を教えようとしてもエンジンが足りず、実践できずに困っている。水の問題もあるが、水道料金の支払いの問題があり、なかなかうまくいっていないのが現状であるとの事。

- 大使館で作ってくれたという日本食。わざわざ数日ぶりなのに感動した。



吉田大使（前列中央）との記念写真



日本食バイキング

14:00~15:00

OpenSanit 社 (テント、ユニホーム類の製造業) KAIZEN 実施企業

●日本人専門家菊池氏が KAIZEN 指導している企業訪問した。

菊池氏の指導により、業務効率や安全管理の徹底など、全ての面で向上したと語っていた。



左から3番目が菊池氏



工場の2階。以前は格子がなかったらしい

15:30~16:30

EPZA (輸出処理ゾーン) KAIZEN 実施企業

●日本人専門家菊池氏が KAIZEN 指導している。

OpenSanit 社同様、菊池氏の指導により、業務効率や安全管理の徹底など、全ての面で向上したと語っていた。



概要紹介



敷地内にミニキリマンジャロが。

17:30～18:30

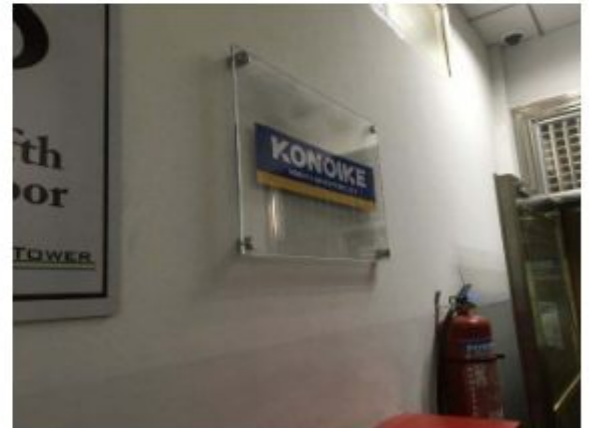
鴻池組訪問 日本人所長が不在のため、ABE イニシアティブ卒業生のスタッフパスカル氏

●鴻池組が受け入れたタンザニア人インターン生2名のうち、パスカル氏を採用。同氏は島根大学で地球システム環境を専攻していた。

●タンザニア事務所では鴻池組の現地プロジェクトのサポートを行っているが、現在はさほど仕事がないようだが、水道の仕事を主にやっていると言っていた。面会の時間が少なく、非常に慌ただしかったので、名刺と弊社の会社案内を手渡して少し話した程度に留まった。



パスカル氏 (左)



鴻池組事務所内

19:30～21:00

在タンザニア日本企業、JICA タンザニア事務所との会食

参加者

●JICA タンザニア事務所：4名

●在タンザニア日本企業：7名

タンザニアには、沖縄出身の金城拓真氏（北谷町出身）という方がビジネスで大成功を納めている会社（10か国、50社、年商500億）の副社長を務める金谷氏が出席していた。金谷氏は、両親は日本人だが、アフリカ生まれでアフリカ育ち、英語、日本語をはじめとする8か国語を話す。

□2/2 (金)

9:00～10:00

タンザニア投資センター訪問

●ケニアの産業経済情勢についての講演受講



講演風景

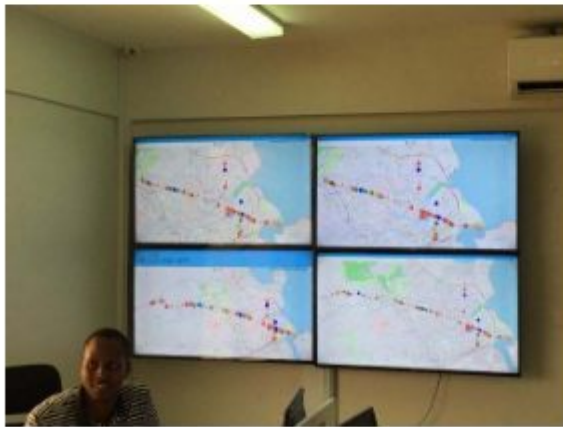


地元TV局のインタビューを受けていた

10:45~11:30

UPA Rapid Transit Limited 社訪問 バス交通会社

●タンザニアでバスを運行している会社。GPS でバスの運行状況を管理している（システムはベルギー製とのこと。）このバスは専用のレーンを渋滞を横目に走行していた。調査団の一員であるスタジオキャンビー社が以前から交渉していたバス配車サービスのアプリ開発の仕事がこの日受注した。スタジオキャンビー社には弊社のマッピングシステムをうまく活用できるようなソフト開発が可能かどうか相談したので、費用面などの課題もあるが、今後連絡を取りながら模索する。



システム画面



大型バス

13:30~14:15

TFLMotors 社訪問 中古車販売店

●オーナーはイギリス出身で Holidayinn Hotel など多角的に経営し、非常に多くの資産を持っているようである。今回我々に説明をしてくれたのはパキスタン人だった。彼は親が在日本のパキスタン大使（大使館職員かも）だったようで、日本に長く住んでいたため日本語は堪能であった。彼曰く、イギリス人のオーナーはこの会社を趣味でやっているようなものとの説明があった。タンザニアでのビジネスは、お金の支払いなどのリスクがかなりあるということであった。



日本語堪能



展示販売

15:00～18:00

ネットワークセッション(帰国 ABE 研修生との交流会)

●ホテルの大ホールで、帰国した ABE イニシアティブ研修生と日本側の総勢 100 名程度の交流会。調査団員も自己紹介。さすがに緊張した。3 名の ABE イニシアティブ研修生がパワーポイントで自己の日本での取り組みを紹介していた。その後は、ドリンクを飲みながら研修生と名刺や意見交換を行った。やはり水道のニーズは高く綺麗な水を飲んでいるのが伝わった。現地の人も水道水は飲むことはなく、ペットボトルの水を飲むという事であった。



帰国研修生の発表の様子



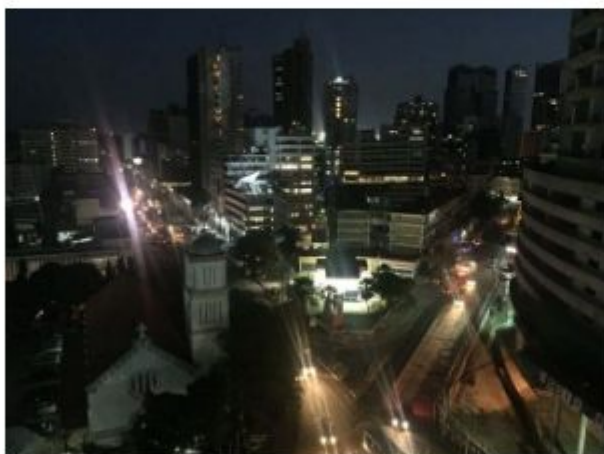
ABE イニシアティブの帰国研修生



交流会の様子



交流会の様子



交流会後、別ホテルの屋上からの夜景

□2/3 (土)

9:00~13:00

ホテルチェックアウト後 TingaTingaVillage、地元のスーパーマーケットを訪問し、お土産購入。その後空港へ



TingaTingaVillage で売っている絵

14:00~

タンザニア⇒ドバイ 移動

□2/4 (日)

02:50~19:00

ドバイ⇒成田⇒羽田 移動

□2/5 (月)

08:00~13:00

羽田⇒那覇 移動